

令和7年度病虫害発生予察予報第3号(令和7年6月)

令和7年6月4日  
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲 (早期稲)	いもち病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ イネカメムシ	<u>多(中央)</u> 、平年並(東、中西、西) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東、中西、西) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、中西、西) やや少(県下全域) やや少(県下全域)
水稲 (普通期稲)	いもち病 スクミリンゴガイ	平年並(県下全域) <u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央、中西)</u> 、やや少(西)
カンキツ類 (温州ミカン)	そうか病 黒点病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	やや少(中央) やや少(中央) やや少(中央) やや少(中央)
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	<u>多(東、中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>多(東、中央)</u> 、やや少(中西、西) やや少(県下全域) 並(中央)、やや少(中西)、少(東、西) やや少(県下全域)
ナシ	果樹カメムシ類	やや少(中央部)

※ ( )内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部  
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村  
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、  
 吾川郡いの町および高岡郡日高村  
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町  
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

## I 気象予報(高松地方气象台5月29日発表)

5月31日から6月30日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並、高い確率ともに40%です。降水量は、平年並、多い確率ともに40%です。日照時間は、少ない確率40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率が50%です。2週目は平年並、低い確率ともに50%です。3～4週目は高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	20	40	40
		日照時間	40	30	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	50	40	10
2週目		20	40	40
3～4週目		20	30	50

<予報の対象期間>

1か月:5月31日(土)～6月30日(月)

1週目:5月31日(土)～6月6日(金)

2週目:6月7日(土)～6月13日(金)

3～4週目:6月14日(土)～6月27日(金)

## II 病虫害発生予想

### 1 早期稲の病虫害

#### 1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量:多(中央部)、平年並(東部、中西部、西部)

根 拠

(1) 5月の調査では、中央部で平年より多い発生が見られた。向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されており、今後、本病の発病に好適な条件が出現しやすくなると考えられる。

(2) BLASTAM(葉いもち発生予測システム)では、5月18日に高知、中村および宿毛で、同21日に窪川、佐賀および中村で、同24日に須崎で感染好適日の出現が確認されている(BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所HPを参照)。

## 対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

## 2) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量:やや多(中央部)、平年並(東部、中西部、西部)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では中央部で発生が見られ、発生面積は平年並であった。
- (2) 6月の気温は平年並または高いと予想されているため、本虫の発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

### 対 策

- (1) 近年、本虫の媒介する萎縮病の発生はほとんど見られていないことから、低密度時に薬剤防除を実施する必要はない。しかし、出穂期から登熟期にかけて本虫の密度が高くなると実の充実が悪くなることがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

## 3) ヒメトビウンカ

予 想 発生量:多(中央部)、平年並(東部、中西部、西部)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、中央部で平年より多い発生が見られた。
- (2) 6月の気温は平年並または高いと予想されているため、本虫の発生は増加し、未発生地域においても発生が見られるようになると考えられる。

### 対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないため本虫を対象にした薬剤散布の必要性は低いですが、発生が多い場合は他の病害虫との同時防除を行う。

## 4) セジロウンカ

予 想 発生量:やや少(県下全域)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では県内での発生は確認されていないが、例年、6月～7月に大陸から飛来するため、梅雨時期以降は発生が増加すると予想される。

### 対 策

- (1) セジロウンカは、トビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫である。飛来が多い場合はほ場内での発生に注意し、成虫数が株当たり5頭以上になったときは薬剤防除を行う。

## 5) イネカメムシ

予 想 発生量:やや少(県下全域)

### 根 拠

- (1) 2月の低温により、越冬個体は平年よりも少なかったと想定されるが、6月の気温は平年並か高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件になると考えられる。

### 対 策

- (1) 出穂期の加害により不稔となる恐れがあるため早期発見に努め、発生が見られるほ場では出穂期に薬剤防除を実施する。

## 2 普通期稲の病害虫

### 1) いもち病(葉いもち)

予 想 発生量: 平年並(県下全域)

#### 根 拠

- (1) 向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想されており、今後、本病の発病に好適な条件が出現しやすくなると考えられる。
- (2) BLASTAM(葉いもち発生予測システム)では、5月18日に高知、中村および宿毛で、同21日に窪川、佐賀および中村で、同24日に須崎で感染好適日の出現が確認されている(BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病害虫防除所HPを参照)。

#### 対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、QoI剤の使用回数は作期を通じて1回とする。

### 2) スクミリンゴガイ

予 想 発生量: 多(東部)、やや多(中央部、中西部)、やや少(西部)

#### 根 拠

- (1) 5月の早期稲の巡回調査では、東部、中央部、中西部で発生面積は平年並から多く、普通期稲においても該当地域を中心に発生が多くなると考えられる。
- (2) 6月の気温は平年並または高いと予想されていることから、活動は活発になり、移植後は被害を受けやすいと考えられる。

#### 対 策

- (1) 発生水田では田植後2~3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等(約5mm目合)を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。

## 3 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

### 1) そうか病

予 想 発生量: やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 5月の調査では発生面積は平年より少なかった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

#### 対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねた予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

### 2) 黒点病

予 想 発生量: やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は平年より少なかった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、既発ほ場を中心に発生は増加し、その他のほ場でも発生が見られ始めると考えられる。

## 対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

### 3) ミカンハダニ

予 想 発生量:やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 5月の調査では、発生面積は平年よりもやや少なかった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多いとされており、現在の発生量で推移すると考えられる。

#### 対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

### 4) 果樹カメムシ類

予 想 発生量:やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 5月の調査では、発生は確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる5月の誘殺数は、県下全域で平年より少なかった。また、県内2地点に設置した予察灯においては、四万十市でツヤアオカメムシ2頭(平年値13.8頭)の誘殺が見られた。
- (3) 6～8月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

#### 対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

## 4 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

### 1) そうか病

予 想 発生量:多(東部、中央部、西部)、やや少(中西部)

#### 根 拠

- (1) 5月の調査では東部、中央部、西部で発生が見られ、発生面積はいずれも平年より多かった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多い、日照時間は平年より少ないと予想されており、平年と同様に曇雨天の日が多い見込みであることから、既発ほ場を中心に発生が増加し、その他のほ場でも発生が見られ始めると考えられる。

#### 対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

## 2) 黒点病

予 想 発生量:多(東部、中央部)、やや少(中西部、西部)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、東部、中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は東部、中央部で平年よりも多く、中西部で少なかった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多い、日照時間は平年より少ないと予想されており、曇雨天の日が多い見込みであることから、既発ほ場を中心に発生が増加し、その他のほ場でも発生が見られ始めると考えられる。

### 対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風垣の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1~2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

## 3) かいよう病

予 想 発生量:やや少(県下全域)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では発生は確認されなかった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多いと予想されており、曇雨天の日が多くなる見込みであることから、常発ほ場を中心に本病の発生が見られるようになると考えられる。

### 対 策

- (1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

## 4) ミカンハダニ

予 想 発生量:並(中央部)、やや少(中西部)、少(東部、西部)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、中央部、中西部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、中西部ではやや少なく、西部で少なかった。
- (2) 6月の降水量は平年並または多いと予想されており、現状の発生量で推移すると考えられる。

### 対 策

- (1) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

## 5) 果樹カメムシ類

予 想 発生量:やや少(県下全域)

### 根 拠

- (1) 5月の調査では、発生は確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる5月の誘殺数は、県下全域で平年より少なかった。また、県内2地点に設置した予察灯においては、四万十市でツヤアオカメムシ2頭(平年値13.8頭)の誘殺が見られた。
- (3) 6~8月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活

動が活発になると予想される。

#### 対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

## 5 ナシの病害虫

### 1) 果樹カメムシ類

予 想 発生量: やや少(中央部)

#### 根 拠

- (1) 5月の調査では、発生は確認されなかった。
- (2) 県内4地点に設置したフェロモントラップによる5月の誘殺数は、県下全域で平年より少なかった。また、県内2地点に設置した予察灯においては、四万十市でツヤアオカメムシ2頭(平年値13.8頭)の誘殺が見られた。
- (3) 6~8月の気温は平年より高くなると予想されており、今後、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

#### 対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫            etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病害虫防除指針 etc.)